

令和8年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語科では、多くの領域で市の平均とほぼ同等である。しかし、話し手の意図を捉えたり、自分の意見と比較しながらまとめたりすることが苦手な傾向にあり、無回答率も高い。「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の活動を日常的に行い、自分の思いや考えを言語化したり文章化したりする学習を習慣にしていきたい。
- ・算数科においては、学年差は多少あるものの、知識を身に付け、既習事項を活用しながら問題を解決できる児童が多くいる。しかし、目的に応じて適切な資料を選択し、得た情報を用いて分析したり具体的に説明したりすることに課題がある児童も見られる。今後も「数学的な見方・考え方」を働かせられるような学習課題の設定に努めるとともに、問題を協働的に解決する活動や、社会科や理科との関連を図りながら学習に取り組むなどの教科横断的な活動を充実させていきたい。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好き」に関する設問の肯定的回答割合は市の平均より低い学年もあり、学習に対して興味・関心を高めていく必要があることが分かる。また、「学習したことを繰り返し復習している」についても、市の平均より低く、学習習慣の確立を図る必要がある。
- ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」や「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」では、市の平均より低い結果である。自分の考えを自由に話したり、多角的に物事を考えたりできるような学習課題を工夫し、互いに伝え合う活動を積極的に取り入れていく必要がある。
- ・読書習慣に関する設問では、学年によって差が見られる。今後も継続して、朝の読書タイムや図書室の利用を推奨し、読書に親しむ児童の育成に努めていく。
- ・家庭学習時間においては、平日と休日の差が大きく、休日はほとんど学習しない児童もいる。今後は、学習の計画を工夫させるなど、家庭学習の一層の習慣化を目指していく。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ペアやトリオ、グループ学習など「学習形態の工夫」、児童の意見をつなぐ「教師のコーディネート」について研究を深めてきたことで、児童が協働して課題を解決しようとする姿が見られてきた。今後も、協働的な学びの工夫や、児童自身が「学びたい」という意欲をもって学習できるような学習課題の設定に努めていくとともに、「書く力」「聞く力」「伝える力」をより確かなものにし、自分の考えを、根拠を明確にした上で言語化する力、またそれらを認め合い、ともに高め合うことができる児童を育成していきたい。

2 今年度の重点目標

基礎国語力の向上を図りながら、表現に必要な知識・技能を確実に身に付け、自分の思いや考えを言語化して表現できる児童の育成に努める。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和8年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 授業実践の工夫(年間を通して)

- ★□○児童自身が、「学びたい」という意欲をもって学習できるような学習課題の設定を行う。
- ★□○児童同士が関わり合い、学び合える活動等を工夫し、多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見いだしたりして、多面的・多角的な視点から課題解決できるようにする。
- ★□○ペア、トリオ、グループ等、関わり合いながら学ぶ学習形態の工夫を行う。
- ★□○終末の振り返りでは、各教科の特性を生かし、単元、学年、他教科等の学びや生活の改善などに関連付けられるようコーディネートしていく。
- ★□○資料等を活用し、読み取る力を育成するとともに、情報を活用して自分の考えをまとめられるように意図的な場を設けていく。
- ★□○朝の学習を継続して行い、基礎国語力の向上を図る。
- ★□○学習内容や発達段階に合わせてICT機器や図書資料等を効果的に活用し、児童の理解や思考が深められる授業を行う。
- ★□○教員の授業コーディネート力を基にした「問いかけ」の習慣化による、児童に考えさせる授業の実践を行う。

(2) 計画的・継続的な研修の工夫

- 自分の思いや考えを表現し、ともに高め合う児童の育成
～学び合いを通して深まる授業づくりの実践～
を目指した各教科での一人一授業の実施（通年）と研究協議の実践

(3) 家庭・地域との連携・協力

- ★「家庭学習スタンダード」を周知し、家庭と連携・協力することで宿題や自主学習等の家庭学習を習慣化できるようにし、基礎・基本を確実に習得ができるようにする。
- ★年2回、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の充実を図るとともに、取組の状況を発信していき、学校と家庭とで望ましい学習習慣を確立できるようにする。
- ★地域コーディネーターと連携・協力することで、ボランティアを活用した教育活動を充実させる。